さまーすくーるin大子 2019

代表者：教育学部３年次　黒畑　晴喜

連携先

大子町役場　まちづくり課

顧問教員

生越達

教育学部　教育学研究科　教育実践高度化専攻

参加者

黒畑　晴喜	教育学部３年
前田　彩音	教育学部３年
小野瀬　充奈	教育学部３年
関　美月	教育学部３年
岡部　千絵子	教育学部３年
佐藤　実里	教育学部３年
牧島　あゆみ	教育学部３年
川島　成実	教育学部３年
赤津　彩里奈	教育学部３年
砂押　茉央	教育学部３年
立花　日菜	教育学部３年
青木　紗佳	教育学部３年
小山　茅冬	教育学部３年
生田目　育実	教育学部３年
羽佐間　蓮華	教育学部３年
萩原　可菜	教育学部３年
川島　友里花	教育学部３年
長瀬　未来	教育学部３年
杉江　優太	教育学部３年
佐藤　郁美	教育学部３年
寺門　遼香	教育学部３年
根内　晴香	教育学部３年
時光　宏太	教育学部３年
生田目　航	教育学部３年
久保木　優文	農学部３年
河井　孝太	人文社会科学部２年
小圷　麻耶	人文社会科学部２年
卜部　野々香	人文社会科学部２年
広瀬　哲郎	教育学部２年
中野　瑞希	教育学部２年
海老原　晴輝	教育学部２年
今長　直紀	教育学部２年
浦　瑞穂	教育学部２年
竹中　葵	教育学部２年
櫻井　凛	教育学部２年
斎賀　友輔	教育学部２年
増井　竜人	教育学部２年
山城　光	教育学部２年
鈴木　優薫	教育学部２年
真家　淑乃	教育学部２年
水戸部　乃理	教育学部２年
青木　駿太	教育学部２年
宍戸　菜央	教育学部２年
渡辺　有咲	教育学部２年
安齋　一真	教育学部２年
天野　佑香	教育学部２年
大平　佳奈	教育学部２年
渡辺　布実	教育学部２年
美佐田　和歌子	教育学部２年
井上　夏奈	教育学部２年
小野瀬　美沙	理学部２年
井能　楓	理学部２年
平沼　標雅	工学部２年
村上　佳織	農学部２年
宮下　楊子	人文社会科学部１年
立石　真子	人文社会科学部１年
市橋　朱理	教育学部２年

萬造寺　美輝	教育学部２年
谷川　輝弥	教育学部２年
高﨑　雅貴	教育学部２年
鈴木　真央	教育学部２年
向島　春菜	教育学部２年
品田　晃志郎	教育学部２年
木村　瑠莉	教育学部２年
伊藤　夕貴	教育学部２年
酒井　杏葉	教育学部２年
山中　ほのか	教育学部２年
渥美　彩加	教育学部２年
谷田部　泰生	教育学部２年
古口　翔也	教育学部２年
高橋　聖	教育学部２年
五本木　晴生	教育学部２年

プロジェクトの概要

さまーすくーるin大子2019は子どもふれあい隊が実施している事業のひとつである。今年は令和元年８月１９日(月)から２１日(水)に開催した。大子町にある「初原ぼっちの学校」をお借りして子どもと学生だけで２泊３日のキャンプを行う。大子町役場や近隣住民の方に協力をしていただきながら，子どもたちが日常生活では経験できないような活動する場を創出していることを目的としている。主な活動として，子どもたちが自分や友達，大学生の食事を作る野外炊飯の経験や，大子町の豊かな自然を生かしたレクリレーションなどを行う。事業後も，３日間の終了証の送付や，３日間の様子をまとめた DVD の作成，保護者の方へのアンケート調査など，連絡を取り合った。大子町役場や近隣住民の方にも終了の報告をさせていただいた。

<日程>

１日目
- 開校式
- オープニング
- 昼食(夏野菜カレー)
- 室内レクリエーション
- 夕食(生姜焼き)
- 夜の学校探検

２日目
- 朝のつどい
- 朝食(パンケーキ)
- 大子町探検
- 昼食(流しそうめん)
- ストラップ作り
- 夕食(レタスチャーハン)
- キャンドルファイヤー

３日目
- 朝のつどい
- 朝食(ロコモコ丼)
- そうじ
- 昼食(ちらし寿司)
- エンディング
- 閉校式

写真１　全体写真

プロジェクトの成果報告

●準備段階

２０１９年４月から準備を行い，開催した８月までに月に１回のペースで大子町を訪れ準備を重ねてきた。本プロジェクトの支援金を用いて，デッキブラシやほうき，雑巾を購入し，少しでも清潔な環境を整えてきた。ほかにもエアーベッドを購入し，準備中や本番中に体調を崩した学生・子どもの対応も準備した。

自分たちの準備だけでなく，参加する子どもの保護者への説明会や大子町役場，子どもたちの移動に使わせていただくバス会社やキャンプファイヤー(今年度は悪天候のためキャンドルファイヤーに変更)を行うための消防署への連絡，近隣住民の方へのあいさつも行っている。

写真２　初原ぼっち学校の様子

●さまーすくーる in 大子 2019 のテーマ

毎年，『さまーすくーる』ではテーマを決めており，今年は「Oh! Hi! Summer!!～おひさま～」，小テーマを「楽しむ」，「笑顔」と設定した。子どもたちが，大学生や初めて出会う友達と共に楽しんで過ごすことで，楽しさの中から多くのことを吸収し，まるで太陽の輝きのようなキラキラとした思い出と笑顔にあふれた 3 日間となることを目標として活動した。

実際には，最初は恥ずかしさか，学生や友達に対しても話しかけられない子どもたちが，だんだんと打ち解けていく様子が伺えた。，この変化には，普段とは違う生活を共に過ごすことが大きな要因となることを感じた。打ち解けて話すだけでなく，他人の気持ちを大切にして，役を決める際には，譲り合う姿勢や全員が納得するように結論を話し合うなどの姿も見られた。

事後の保護者へのアンケートでは，「一人で参加し，自信がついたようだ」や「家の手伝いをするようになった」，「自分で持ち物の準備をするようになった」など，さまーすくーるでの成長が家庭に帰っても反映されていることがわかった。したがって，２泊３日の共同生活が感性の豊かな子どもたちを刺激し，自主性や積極性を高めたのではないだろうか。

●募集について

ポスターやチラシを水戸市・大子町内の学校や，施設等に配布・貼付することで多くの子どもたちやその保護者に知ってもらうことを目指した。加えて，更なる応募を見込んで，Twitter やホームページでも情報を公開した。，

●学生が得られた成果

今年は「将来の糧になる」ことを目的として事業を行ってきた。学生だけで事業の準備・運営をしなくてはいけないため，準備段階での先を見通す力や計画性，本番での状況に応じた判断や対応力など求められることが沢山ある。特に今年は，事業当日が雨となり，学生の準備ができていたことや，柔軟

な対応力があったため乗り越えることができた。このような経験が学生一人一人の「将来の糧」になったといえる。

写真３　雨対策の様子

●本番の様子の一部

〇野外炊飯

３日間の食事は，学生と協力して，子どもたち自身が友達や学生の食事を作る。その際，野外炊飯という形をとり，簡易的なかまどを製作し，火を燃やし，鉄板で調理をする。その事前準備として，火を燃やすために必要な薪は近隣の方に協力していただき調達をした。，さらに，主な食品は大子町にある食品売り場を利用し購入している。

写真４　野外炊飯の様子(簡易かまど)

写真５　野外炊飯の様子　野菜の調理

〇エンディング

３日間の思い出としてみんなで寄せ書きをします。今年は台紙に立体的な花を作った。これは，子どもたちの記憶に残るような事業にするため毎年，作成していて，形に残るものを作成し，持ち帰ってもらうことで来年以降の参加や大子町について知ってもらう・興味を持ってもらう機会としている。

写真６　エンディングの寄せ書き

●今後の展望

来年度も開催を目指すが，今年は募集が思うように伸びず，予定していた人数を下回ってしまった。学校行事と同じ日に開催してしまったことが要因の一つといて挙げられるが，学生側の「さまーすくーる」における宣伝体制も次年度は強化したいと考える。１年を通して茨城県内のボランティア

活動に参加させていただいているので，そういった機会も活用しつつ，私たちの活動も知ってもらい，参加したいと思わせるような声掛けをしていきたい。

現在，新型コロナウイルスの感染が拡大していることから，来年以降は今まで以上に保健衛生について対策を講じる必要がある。その点もよく学生で話し合うことや，専門家に相談するなどしていきたい。

写真７　キャンドルファイヤー